

タブレットを用いての新たな国語教育

— 高等学校第一学年・紫・国語授業の実践報告 —

木本有紀子・鶴町優実・玉田珠明

桐朋女子中学校・高等学校

キーワード：タブレット、ICT、国語、ロイロノート、高等学校第一学年

一、はじめに

桐朋女子高等学校では、二〇一九年度（令和元年度）からタブレットを導入しての授業実践を行っている。

今年、二〇二〇年度、紫の学年が高等学校一年となり、五月から一人一台タブレットを所持し、教育活動において様々な場面で今までとは違った方法や形式で、学習活動を積み重ねてきている。タブレットの活用の幅は、各教科の学習のみならず、生徒会などの委員会活動や学年のクラス委員会や実行委員会など多岐に渡っているが、今回ここでは、高校一年の国語の学習についてスポットをあてて、教育の現場で実際どのように活用してきたか、その思考錯誤しながらの一年間の授業実践をまとめてみたい。

指導にあたった教員は木本・鶴町・玉田の三名である。大筋の方針

はこの三人の共通見解のもとに進めてきた。その全体像に加えてここでは私見として三人それぞれの視点で、タブレットを教育機器として指導のサポートとして、どのように扱ってきたか、また今後タブレットを使ってさらによりよい教育活動を発展させるためにどのようにしたらよいか、という視点から、現時点での今後の取り組みに関する展望を書き記しておく。

二、コロナ禍での五月休校中の取り組み

今年度当初の四～五月の約二か月、新型コロナウイルスに対する感染予防のため、休校を強いられた。四月は課題の郵送などで凌ぎ、五月にタブレットを各自に配送し、そこから、授業内容の動画配信などを通して、学習を進めていくこととなる。そして、六月開校とともに、配信した動画内容に関する確認テストを実施し、知識の確認と定着を図った。

※動画配信の具体的な内容は、文末の添付資料参照。

三、開校後、ロイロノートを使つての授業における具体的な運用

《現代文》

・『「かわいい」現象』

自分の身近にある「かわいいもの」を写真に撮り、原稿も作成し、送る。皆で共有しながら、それを紹介するスピーチをする。

・『空気を読む』

空気を讀んだ体験、讀まなかつた体験、についての記述作文を作成。みなで共有。

・『水の東西』

語句やそれぞれの段落における表現についての質問にとどまらず、テーマにかかわる課題について、やりとりし、共有しながら、まとめる。

・『セメント樽の中の手紙』

課題図書の扱いのため、感想文を作成し、共有。

・『羅生門』

毎回その日の大きな課題について、投げかけ、生徒の解答を共有しながら、それをもとに考えさせ、解説し、まとめていく。

また、文章を忠実に読み取り、羅生門の描写や、下人の有り様、比喩表現などをイラスト化したりする作業など遊びの作業を導入として実施。共有。読解を進めていく過程で、柱となる課題をロイロ

ノートで集約し、共有。テーマを考える上での材料のストックを共有。最後、まとめとして、初出の本文のラストの一文での違いや、芥川が原典とした『今昔物語』との比較は、ロイロノートを通じて共有。

《古典》

古典では、全クラス共通の授業プリントを配布し、生徒が用言や助動詞、現代語訳、書き下し文などを予習し、それを確認しながら解説する形で授業を展開した。

○古文

・「芥川」(『伊勢物語』)

授業プリントを撮影し、そのデータをロイロノートで提出。また、登場人物やあらすじをまとめて、みなで共有。

・「あづま下り」(『伊勢物語』)

登場人物の設定や和歌の修辭法などの重要な確認事項を、前回の復習として授業の冒頭で出題し、提出。

・「門出」(『土佐日記』)

導入として、便覧を参照しながら『土佐日記』の文学史的な情報をまとめ、みなで共有。

・「忘れ貝」(『土佐日記』)

本文中に登場する対照的な二首の和歌について、詠み手の心情を

それぞれ説明し、みなで共有。

また、本文中の終助詞と係助詞の「なむ」の識別について出題し、解答を提出。

・「帰京」（『土佐日記』）

心情を表す形容詞を本文中から抜き出し、作者の心情の変化をまとめ、みなで共有。

・「はしたなきもの」（『枕草子』）

形容詞と形容動詞の復習として、プリントを配布し解答し提出。

・「雪のいと高う降りたるを」（『枕草子』）

敬語の学習の導入として、副読本を参照させ、練習問題に取り組み、提出。

○漢文

・「先從隗始」

本文中のたとえ話がどのような意図でなされたものなのか、教科書の表を埋め、提出。

・「鶏鳴狗盗」

使役の句法が用いられた文の現代語訳を作成し、みなで共有。訳す上での注意点を全体で確認。

四、授業実践に関する考察と今後の展望

（木本有紀子 私見）

現代文においては、ICT導入以前は単元内の小問は口頭で一人の生徒にのみ解答を聞くものであったが、ロイノートで課題として問いかけることで生徒全員に考えさせることができ、大変有意義であった。生徒一人一人がどのくらい文章を理解しているかこまめに確認できるので、授業の方向性やフォロー等もしやすくなった。

また、意見や感想を書かせた際は匿名の共有機能を使うことで、自分とは違う意見に触れさせることができ、多様な視点から物事をとらえるきっかけにできたと思われる。作文課題もロイノート経由で提出させることで、提出物の管理が容易になり、「出した」「出ていない」の水掛け論もなくなった。

古典では本文を黒板に投影しながら授業できるので、動詞と助動詞とのつながりや係り結びのわかり方の解説がスムーズになった。漢文も口頭ではやりづらい置き字の解説も本文に直接書き込んで見せることにより、視覚的にわかりやすく伝えることができた。ロイノートを使用して本文の内容理解の確認や、新出の文法事項についての課題を投げかけることで、現代文と同じくこまめに理解度をチェックできた。

現代文と古文とに共通するICTの使い方として、資料画像の提示がある。現代の生徒達には想像し難いものやことを見せること

ができるので、より正確に誤解なく文章を理解することができたと思われる。

ICTを活用することで、これまで時間のかかっていた作業がスムーズに進み、生徒一人一人の習熟度をこまめに確認することができるようになった。それぞれの生徒たちの小さなつまづきを早期発見することは、生徒自身にとっても教員にとっても不可欠なことであり、ICTがその一助となっていることは間違いない。たとえ授業中に機械や通信のトラブルがあったとしても、生徒側のトラブルの場合はノートで課題を提出させ、教員側のトラブルの場合もその場で臨機応変に対応することができている。

今後の展望としては、シンキングツールを利用してグループ討論の助けとしたい。新しい生活様式において従来通りの討論は難しくなったが、それぞれが意見を出し合い、読みを深める過程は必要である。カードやシンキングツール、共有機能を使用することによって安全に討論ができるだろうと期待している。

(鶴町優実 私見)

現代文では、生徒の積極的な発言が授業を作る。しかし、これはクラスの雰囲気や生徒の性格等に左右されるものである。また、新型コロナウイルス感染防止の観点から、生徒同士の話し合い活動も制限されることになった。このような中で、教員の解説に偏らない授業を考える上でロイロノートは非常に重要な役割を担っていたと実感する。

授業の構成として、板書を用いて授業↓ロイロノートを用い課題を配信↓生徒がそれぞれ解答し提出、もしくはは宿題として帰宅後に解答、提出↓次の授業の冒頭でその課題を共有、解説↓本時の内容、といった形をとった。このサイクルで授業を展開することにより、前回の授業内容を振り返ってから読み進めることができ、またタブレットを使う時間と教員の話聞く時間のメリハリをつけることもできたと考えている。

古典では、ロイロノートを用いることによって、より生徒の状況を考慮に入れた授業展開をすることができた。高校からの入学生の中には中学時代に古典に触れた経験が少なく、不安を抱えている生徒もいた。また、新学期からおよそ二カ月に渡る休校期間を経て、生徒の学習状況も様々であったと感じた。そのような状況下で、授業プリントや練習問題を気軽に提出させることができ、それを一覽で確認し、返却も容易であるロイロノートに非常に助けられた、というのが正直な感想である。さらに、重要な文法事項や鑑賞的な事項について、「自分で考え、解答を作成する」というのは生徒にとって有益なものであっただろう。その後、共有機能を使って、クラスの仲間の良い解答に触れることが可能であるのもこのツールの利点である。

また、Microsoftのteamsを活用して、国語科通信「藤娘」やその他さまざまな資料を積極的に配信した。短縮授業の中で、配布の時間が省けたことは大きな利点である。授業で扱った文章の発展的な資料を配信することで、生徒の興味関心を刺激することができたと考え

る。さらに、試験的にはあるが、休校期間中にFormsで小テストを作成し、Teamsを通して配信した。授業動画の配信は初めての試みであったが、この小テストを通して生徒の様子が垣間見られたことは動画作成にあたって大きな助けとなった。

最後に、「アクティブ・ラーニング」と「新しい生活様式」の両立について私見を述べたい。昨今、「アクティブ・ラーニング」の重要性が叫ばれる中で、新型コロナウイルス感染防止の観点も授業を展開する上で必要になってきている。ICTを活用することで、これらを両立することが可能であると考える。ICTを通して、生徒一人一人が考え、友人と考えを共有し、さらに考えを深める。これが「新しいアクティブ・ラーニング」ではないだろうか。

(玉田珠明 私見)

タブレットを使つての授業の最も大きな利点は、実際の授業において、設問に対する発言内容を全員からくみ取り、それをその場でかつクラス全員で共有できる、という点にあると思われる。このことは今までになかった即時性と、教師からの発問内容についてクラス全員の生徒の思考を促すという網羅性を与えてくれるものである。

現代文や古典の授業において、即時性をもって、発問内容に同時に全員が向き合える、という点においては、これまで指名しての質問を通して読み進めていく授業展開では、多くの場合一人に対して発問が向けられ、他の多くの生徒は人ごとのように聞き流すことも見受けら

れていた状況を少しでも改善の方向に導くものである。特に、授業において「各自が思考する」、という当たり前の時間が持てるという点が、タブレットを使って可能になっていると実感する。

また他者がどのような考えや意見を持っているのか、その場で、あるいは思考の後に共有できる点もありがたい。コロナ禍で、アクティブ・ラーニング（AL）などの実践がままならず、グループワークが困難な状況にある中、他者との意見共有によって、自分ひとりでは気づくことができなかつた視点を発見することも有効である。学校という場所が他者と切磋琢磨しながらの成長の場であることを考えれば、このような時間を共有することが必須であり、コロナ禍でグループ学習がままならぬ状況下においては、大きな一助となっている。

さらに提出課題についても、データとして残ることが、生徒一人一人にとって、「学習後の振り返りや試験勉強時において学習の跡がノートとともに目に見える形でのこっている」、復習しやすい」ということもあるようだ。またデータで提出するものと紙媒体で提出するもの、というように、それぞれの課題の内容や特性に応じて使い分けができることも、タブレットを利用する利点である。紙媒体で管理する時の、印刷や配布、紛失の恐れなど、これまでの煩雑や苦労は半減されたと実感する。

加えて、Wi-Fi環境などに不具合が生じることは想定に入れ、授業準備をし、その場での突発的に起こる問題にも柔軟に対応することを心掛けるのは、当然必要なことである。タブレットでのやり取りに支

障がある生徒は、その日はノートでのやりとりでよいのであるし、急遽黒板での板書や、電子黒板にパワーポイントなどの資料を映しだす工夫も可能である。学習内容を一〇〇パーセントタブレットに依存するのではなく、それぞれの課題内容や発問内容の集約の仕方に応じてよりよい方法を考え、タブレットを使用しその特性を生かすことが肝要である。

以上、様々なアプローチをしながら、タブレットによる教育効果はこの時代において確実に大きいので、さらなる工夫をして、授業展開をするのが今後の課題である。

五、終わりに

二〇二〇年度当初、コロナ禍における休校を経て、今後の学校生活がこれまで通りにはいかない、否、これまで通りでは通用しないものになることは、想像に難くない。恐らく、今後は、新たな学校生活、新たな学習指導が求められるはずだ。そのことを意識せずに、学校教育は成り立たない。

そこで今後も学習指導は、生徒各自のやり方を今年度である程度確立してくれていると思うゆえ、学校でも家でも自分のやり方で教科に合った方法で、タブレットを使いながら、学習の幅を広げていくように促したい。

具体的には、学校で対面してのやりとりでは、その場で、他者との意見の共有をすることで自分にはない視点をもたせる、また記述問題に對して面倒がらず向き合えるようにし、こまめな指導をする、その二点を意識し、学習を積み重ねることを目標としたい。

加えて、私学であるが学年生徒の力は上位から下位まで幅広く、様々な生徒がいることを考えれば、それぞれに適切なアプローチが必要になる。例えば、自分で計画的な自学のスタイルが身につけている生徒は、今後、休校や分散登校になったとしても、オンデマンドや動画配信と学校での授業における学習のやりくりを自分で差配し、どの教科もこなしつつ、興味関心の向く教科にはより時間をかけて熱中し、より一層の力をつけるであろう。そうでない生徒は、学校での対面授業と、家庭学習が上手く繋がるように、課題の設定をし、タブレットを使つての提出など、工夫し実践を重ねていく。

タブレットを使つての授業は、これまでできていなかったことが可能になり、これまでの授業の弱点を補つてなお余りある成果をもたらしてくれると考え、今後更に試行錯誤しながら、学年スタッフがチームとなつて研鑽を積みたい。

資料：動画配信プログラム

(休校から分散登校時の4月～6月において)

学年：高等学校1年紫 科目名：国語総合

対応状況：課題の解説および授業動画の配信

5/12	高1紫国語科通信「藤娘」第4号(現代文分野のオンライン対応について)配信 授業動画配信「用言の活用②(活用形と活用の種類)」(5分) 『宇治拾遺物語』について(3分) 『水の東西』part1(3分) 『水の東西』part2(6分) 「用言の活用②参照用プリント」B4 1枚(5分) 『水の東西』意味調べプリント」B4 1枚 『水の東西』課題シート」B5 1枚
5/11	授業動画配信「用言の活用①(活用とは何か)」(5分) 「用言の活用①参照プリント」B4 1枚
5/9	高1紫国語科通信「藤娘」第3号(古典分野のオンライン対応について)配信
5/5	4月第五週分課題プリントの解答解説の投稿
4/28	4月第三週分課題プリントの解答解説の投稿
4/21	4月第二週分課題プリントの解答解説の投稿

5/21	授業動画配信「用言の活用⑩(形容詞の活用)」(3分) 『絵仏師良秀』の助動詞(7分)
5/20	授業動画配信「用言の活用⑨(動詞の活用の見分け方)」(5分) 『児のそら寝』の中の助動詞(3分) 『水の東西』part3後半(7分) 『水の東西』part4(8分)
5/19	授業動画配信「用言の活用⑧(下二段活用)」(4分) 助動詞『けり』について(3分) 「用言の活用⑥参照プリント」B4 1枚
5/18	授業動画配信「用言の活用⑦(上二段活用)」(4分) 「用言の活用⑦参照プリント」B4 1枚
5/16	授業動画配信「用言の活用⑥(四段活用)」(3分) 「用言の活用⑥参照プリント」B4 1枚
5/15	授業動画配信「用言の活用⑤(下一段活用)」(2分) 「用言の活用⑤参照プリント」B4 1枚
5/14	授業動画配信「用言の活用④(上一段活用)」(4分) 『絵仏師良秀』解説動画(3分) 『水の東西』part3前半(8分) 「用言の活用④参照プリント」B4 1枚
5/13	授業動画配信「用言の活用③(変格活用)」(6分) 『児のそら寝』導入動画(3分) 「用言の活用③参照プリント」B4 1枚

6/12	6/11	6/9	6/8	6/5	6/3	6/2	5/28	5/27	5/26	5/25	5/23	5/22
授業動画配信 『かわいい』現象③ (10分)	授業動画配信 『伊勢物語』芥川② (6分)	授業動画配信 『伊勢物語』芥川① (5分)	授業動画配信 『かわいい』現象② (10分)	『芥川』現代語訳プリント 授業動画配信 『伊勢物語』文学史解説 (3分) 『かわいい』現象① (5分)	高1紫国語科通信「藤娘」第6号 (六月のteamsでの配信予定) 配信	高1紫国語科通信「藤娘」第5号 (登校日について) 配信	「助動詞『けり』『ず』確認テスト」(翌日の正午までに解答指示・Forms)	「用言確認テスト」配信 (翌日の正午までに解答指示・Forms)	授業動画配信 『水の東西』part 6 (9分)	授業動画配信 「助動詞『ず』について」part 1/part 2 (3分/5分)	授業動画配信 『水の東西』part 5 (9分) 「用言の活用復習プリント」(B4 5枚・解答つき)	授業動画配信 「用言の活用① (形容動詞の活用)」(3分) 「係り結びについて」(6分)

6/20	6/18	6/17	6/16	6/15
ロイロノートを用いての課題提出の指示 (かわいいもの探し)	授業動画配信 『かわいい』現象⑤ (10分)	授業動画配信 『伊勢物語』芥川④ (9分)	授業動画配信 『かわいい』現象④ (6分)	授業動画配信 『伊勢物語』芥川③ (10分) ロイロノートを用いての課題提出の指示 (私の好きな百人一首)

- ・ teamsを用いて学年で1つのチーム (国語2020藤娘79期紫) を作り、それを通じて課題についての指示や授業動画等の配信を行った。
- ・ 授業動画は PowerPoint に音声を入れる方法で作成し、担当者全員10分以内のものを作成することを徹底した。これは生徒が気軽に視聴でき、かつ集中を持続できるようにという配慮である。
- ・ 毎日国語の学習ができるように、こまめに動画配信を行った。
- ・ 質問用のチャネル作成。
- ・ 登校再開後、分散登校の際に授業動画を範囲とした確認テストを実施し、定着の度合いを確認し次の単元に進むというサイクルを作った。